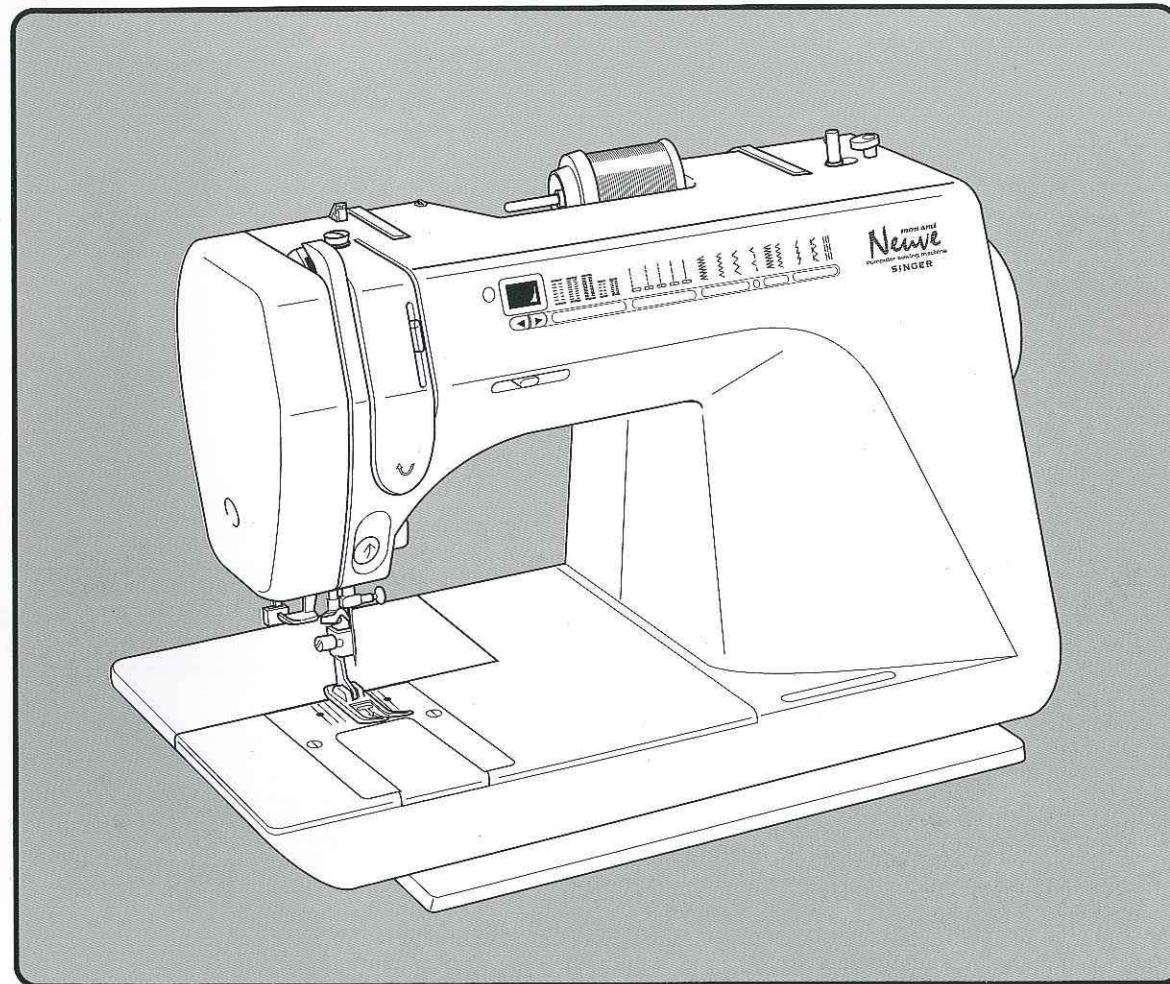


SINGER®

mon ami Neue



使用の手びき

型式：1870

このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、末長くご活用ください。

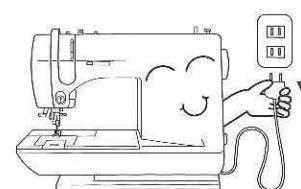
このたびはシンガーミシンをお買い上げいただきましてありがとうございました。このモナミ ヌーヴ 1870型はホームソーイングに必要なないが簡単にできる家庭用コンピュータミシンです。このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。「使用の手びき」は保証書と共に大切に保管してください。

安全にご使用いただくために

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY

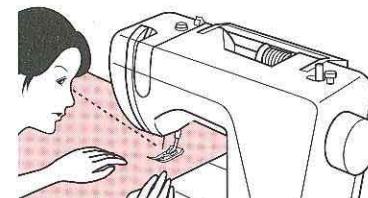
⚠ 警告：感電、火災の恐れがあります。

- 一般家庭用交流電源 100 V でご使用ください。
- 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグをひき抜いてください。
 - ・ミシンのそばを離れるとき。
 - ・ミシンを使用したあと。
 - ・ミシン使用中に停電したとき。



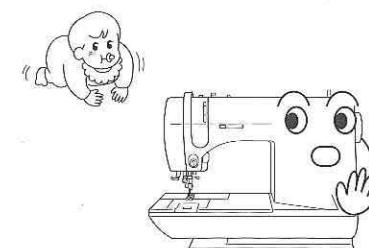
⚠ 注意：感電、火災、けがの原因となることがあります。

- お客様自身での分解、改造はしないでください。
- ミシンの操作時は、すべり板、面板などのカバー類を閉じてください。
- ミシンの操作中は、針元から目を離さないようにし、針、はずみ車などすべての動いている部分に手を近づけないでください。



- まがった針は、ご使用にならないでください。
- 縫製中に無理に布をひっぱったり、押したりしないでください。

- お子様がご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。



7. 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。

- ・針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
- ・ランプを交換するとき。(ランプが冷えてから行ってください)
- ・使用の手びきに記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
- ・原則として、上糸、下糸を交換するとき。

8. ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店、または各地区「お客様相談係」にご連絡の上、点検・修理・調整をお受けください。

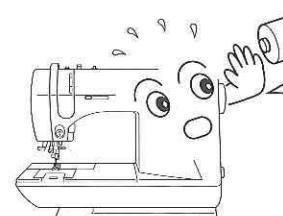
- ・正常に作動しないとき。
- ・落下などにより破損したとき。
- ・水に濡れたとき。
- ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
- ・異常な臭い、音がするとき。

9. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

ミシンの仕様

定格電圧	100 V
消費電力	65 W
周波数	50 Hz / 60 Hz
ランプ定格	3 W / 8 V
寸法	幅 : 396 mm × 高さ : 292 mm × 奥行き : 176 mm
重量	8.7 kg

<ミシンの取り扱い>

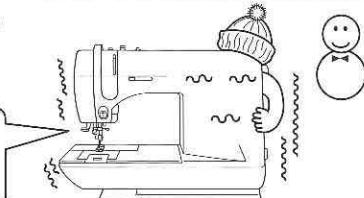


●シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。



●直射日光にあてたり、高温多湿のところには置かないでください。

●低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間がたてば正常に作動するようになります。保管は、なるべく寒いところをさけてください。



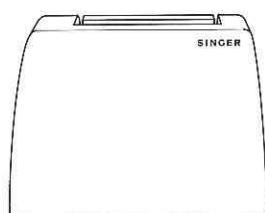
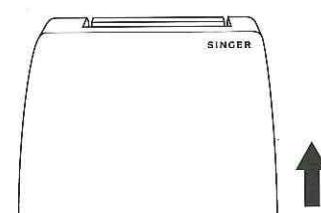
シンガーは皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観デザインまたは、付属品を変更することがあります。

	(ページ)
安全にご使用いただくために	表紙裏
ミシンの仕様	表紙裏
各部のなまえとはたらき	2
付属品	3
電源を入れましょう	4
操作ボタン	4
スタートストップボタン	4
針上下ボタン	4
返しないボタン	4
スピード調節つまみ	4
押え上げレバー	4
シンボルマークの説明	4
下糸巻き	5
上糸のかけ方	6
糸通しの使い方	7
ボビンのセット	8
下糸のひきあげ方	8
模様の選び方	9
直線ぬい	9
糸調子のとり方	10
まっすぐぬうには（ガイドラインの利用）	10
角ぬい	10
返しない	11
フリーアームぬい（筒ものぬい）	11
押えの取りかえ方	11
針の取りかえ方	12
こんな場合は・・・	12
針と糸と布地の関係	13

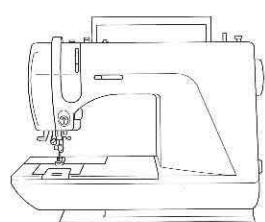
	(ページ)
ぬい模様とその用途	13
ボタンホールぬい	15
ファスナーツ（つき合わせ、脇あき）	16
まつりぬい（ブラインドステッチ）	18
ふちかがりぬい（たち目かがり）	18
伸縮ぬい（ニットステッチ）	19
伸縮強化ぬい（ストレッチステッチ）	19
ボビンケースのはすし方と入れ方	19
ランプの取りかえ方	20
ミシンのお手入れ（いつも調子よく）	20
こんなときには	21
上送り押えのご案内（別売り）	22
フットコントローラーのご案内（別売り）	22
ブラインドステッチ押えのご案内（別売り）	23
シンガーミシン純正部品のご購入方法	24

<ミシンカバー>

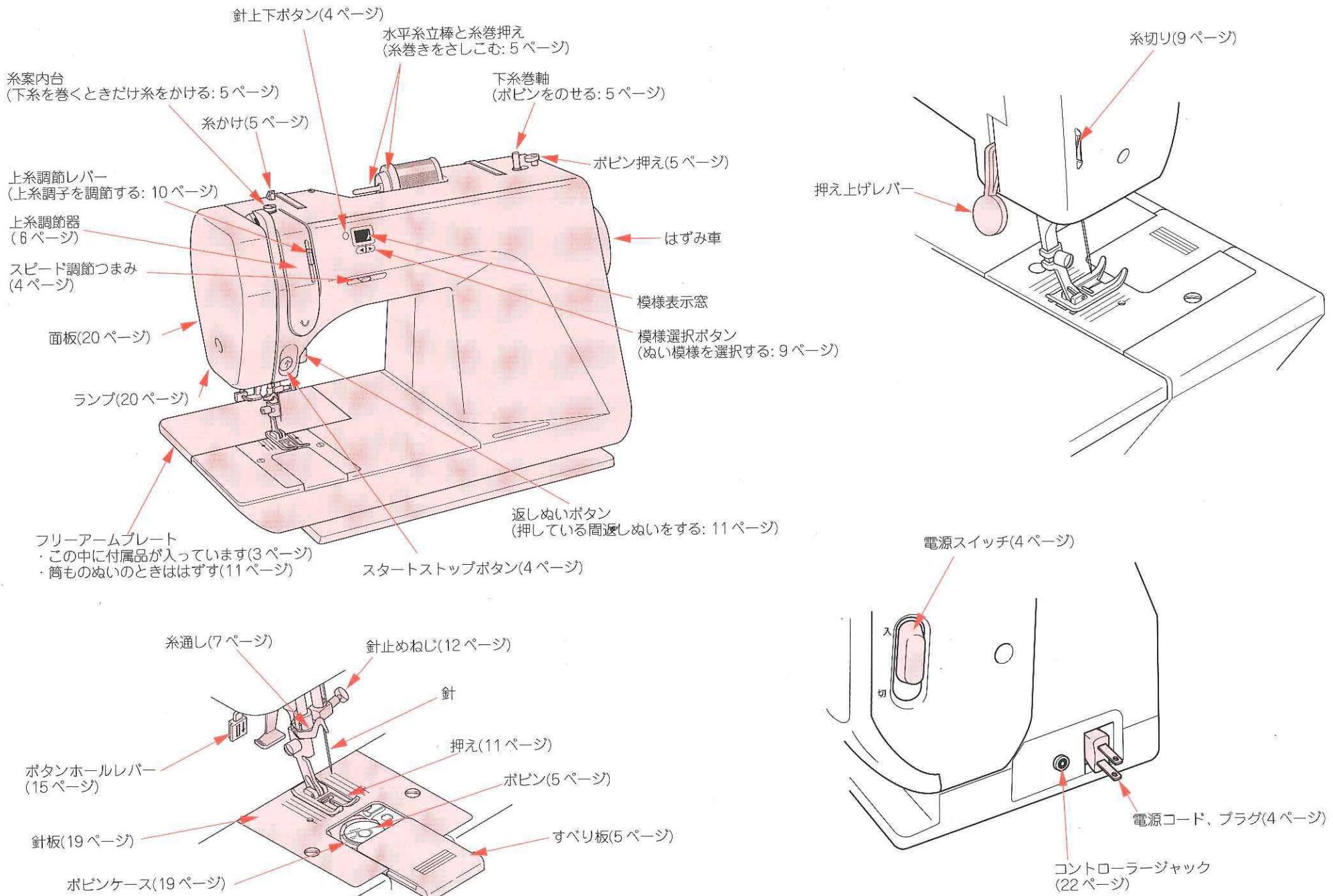
- まずミシンカバーを上にあげて取ります。

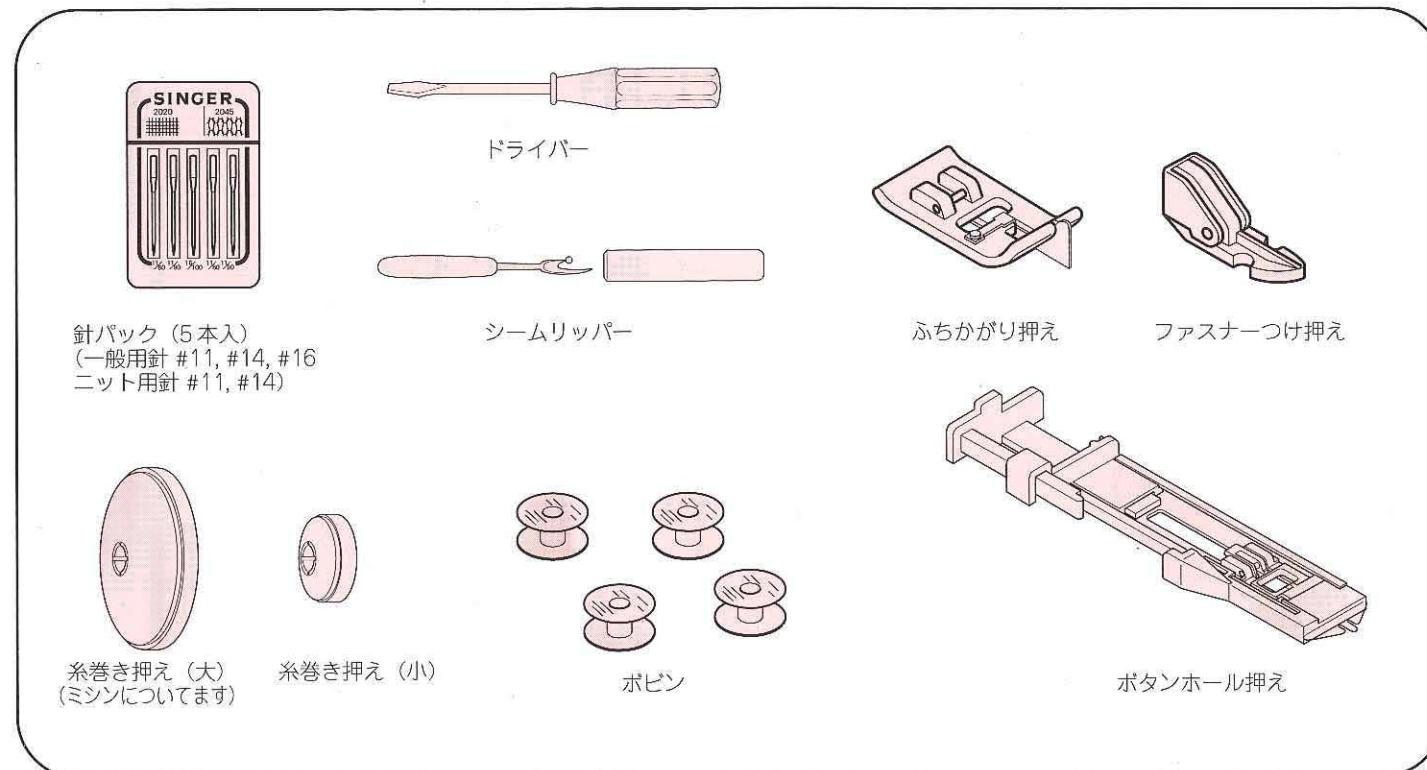


- ミシンを使わないときは、ミシンカバーをかぶせておきましょう。かぶせるときは、ハンドルを立ててください。

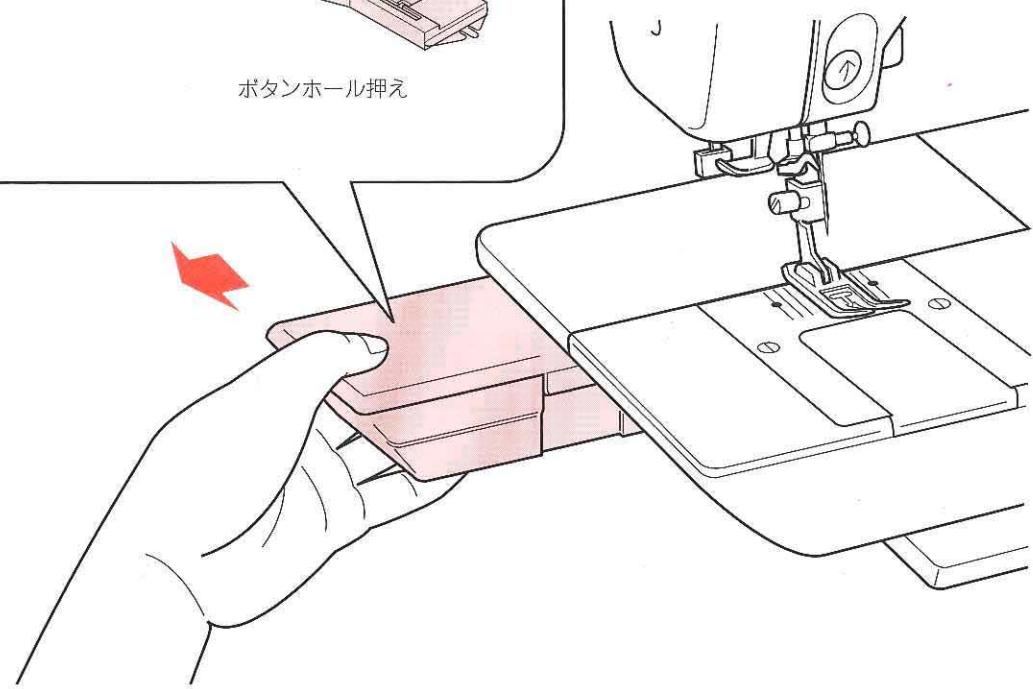


各部のなまえとはたらき



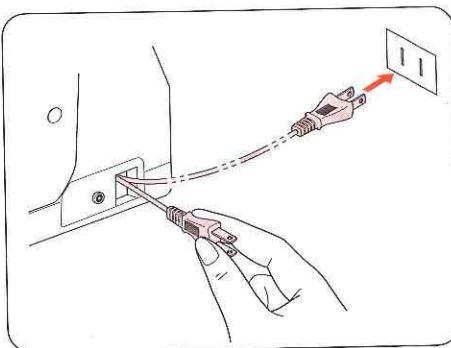


●付属品箱はフリーアームプレートの下に収納されていますので、左側に引き抜いてください。



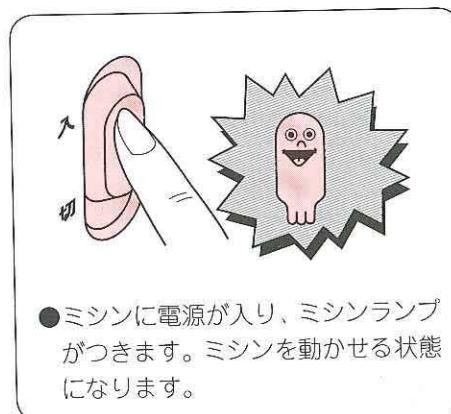
電源を入れましょう

ミシンを安定した場所に置きます。

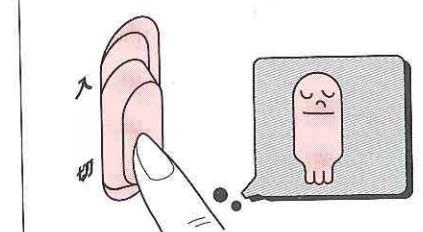


- 1 電源コードをひきだし、プラグをコンセントにさしこみます。
- コードをしまうときは、コードを少しひっぱって、はなしてください。

2 電源スイッチをいれます。



- ミシンに電源が入り、ミシンランプがつきます。ミシンを動かせる状態になります。



- 電源が切れ、ミシンランプが消えます。ミシンを動かすことができません。

3 電源を入れると数字ランプが点灯します。

- 模様は自動的に直線ぬいが選ばれます。模様表示窓に数字ランプ 8 が表示されます。

警告

感電、火災を防ぐために

ミシンを使用しないときは、必ず電源コードプラグをコンセントからはずし、また電源スイッチを切っておいてください。

注意

感電、火災を防ぐために

コードをひきだしそうすると断線の恐れがありますので、赤のマーク以上ひきださないでください。黄色のマークがでたら、間もなく赤のマークです。

操作ボタン

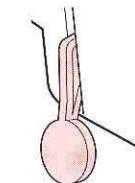
●針上下ボタン

針上下 このボタンを押すたびに針の位置が上下に切りかわります。上位置から続けて2回押すと1針ぬいになります。

●スピード調節つまみ

このつまみは、ゆっくり(左側)から、はやい(右側)まで自由に選べます。

●押え上げレバー



このレバーで、押えの上げ、下げができます。押えが上がっている時は、ミシンはスタートしません。(下糸巻きを除く)

●返しぬいボタン

このボタンを押している間、返しぬいを低速でぬいます。はなすと止まります。

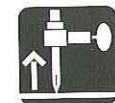
●スタートストップボタン

このボタンを押すと、ミシンが動きます。もう一度押すと、止まります。(ぬい始めの3~4針はゆっくり動きます)

シンボルマークの説明



電源スイッチ (切)



針を上げる



押えを下げる



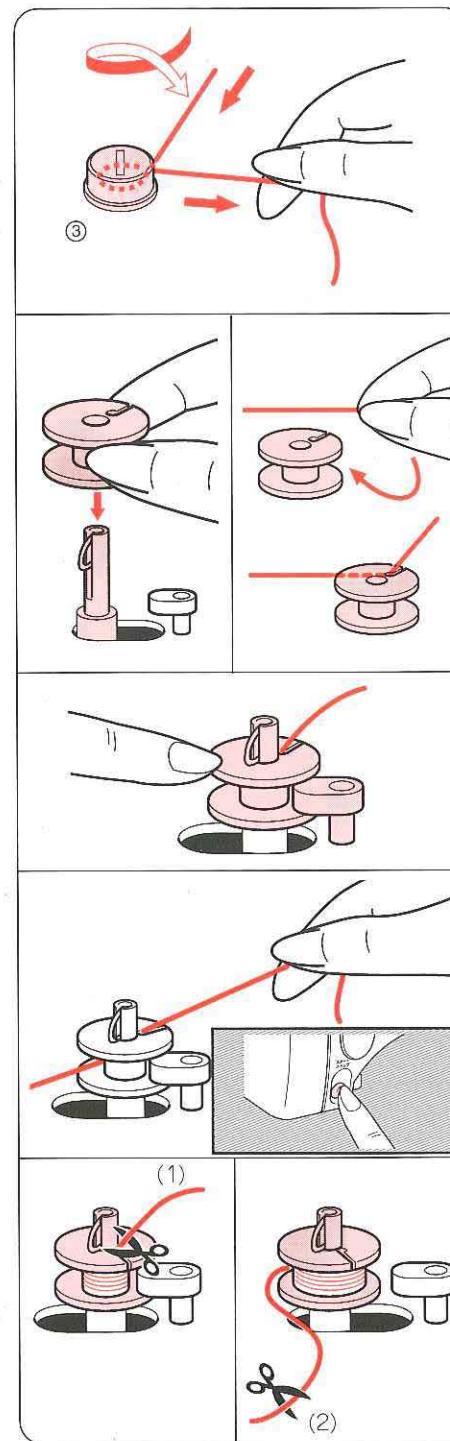
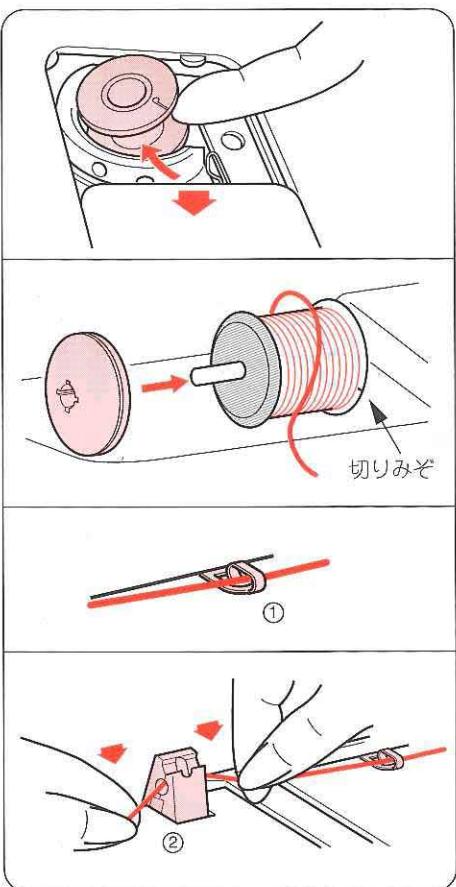
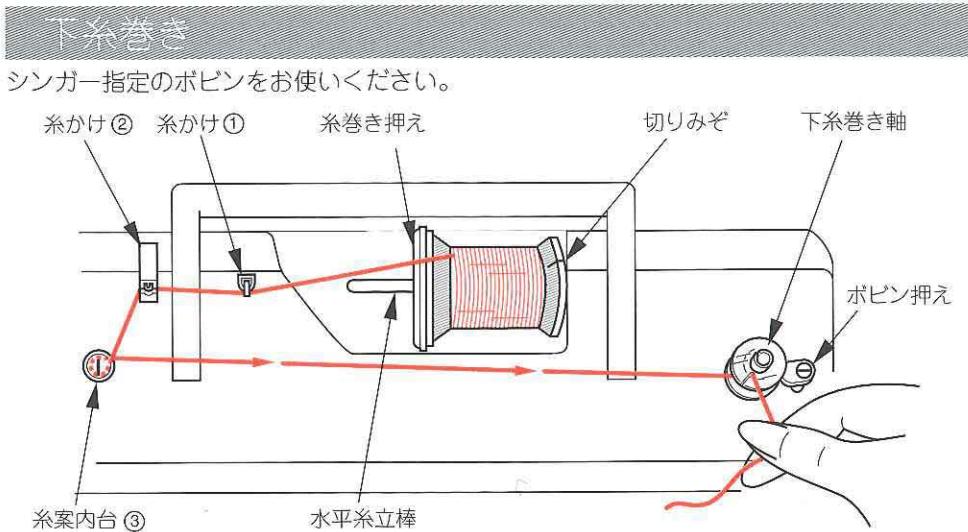
押えを上げる

注意

けが防止のために

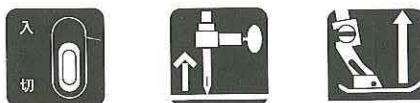
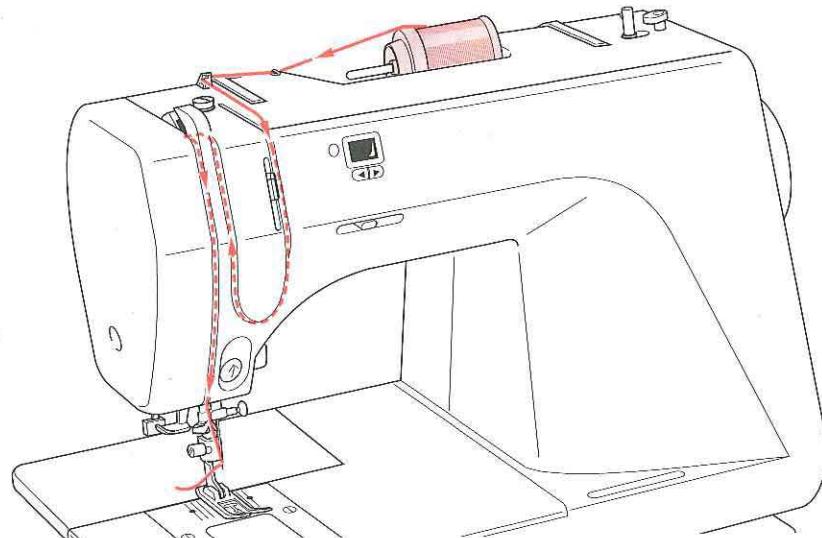
針先には十分注意してください。

- 万一、縫製中にミシンが止まりモーターがうなるようなときは、ブザーが鳴りモーターが止まります。自動的に復帰しますのでミシンを軽く回るようにしてから、再スタートしてください。

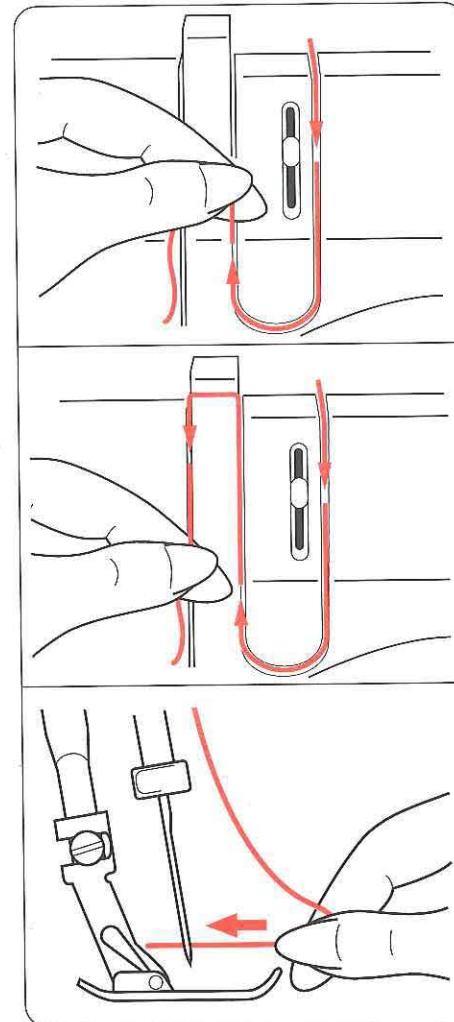
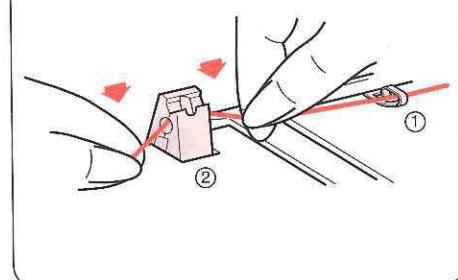
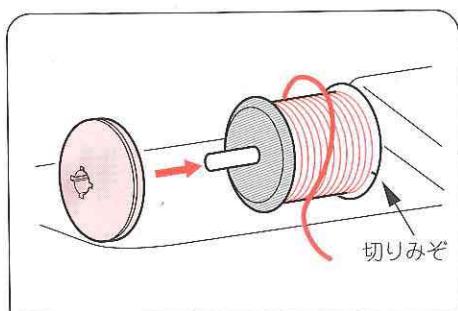


上糸のかけ方

糸のかけかたがまちがっているとぬえませんので、正しくかけてください。



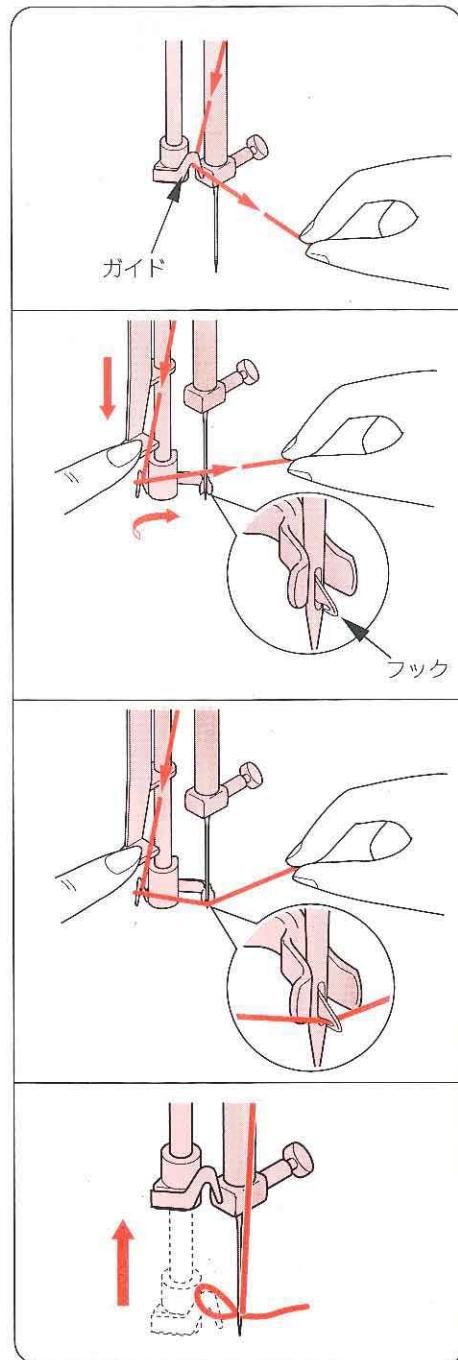
- ・電源スイッチを切ります。
- ・針を上げます。
- ・押えを上げます。
- ・糸巻きを水平糸立棒にセットし、糸巻き押さえでしっかりと抑えます。
- 糸巻きに切りみぞがあるときは、それを右側にして糸立棒にさしこみます(切りみぞが左側になると糸切れの原因になります)
- ・糸かけ①,②に糸をかけ、手前にひきます。



- ・上糸調節器の右側のみぞと左側のみぞにそって糸を通します。

- ・糸は針穴の前からうしろへ通し、10cmくらい引き出しておきます。
- 糸通しを使う場合は、7ページをごらんください。

糸通しの使い方



△ 注意

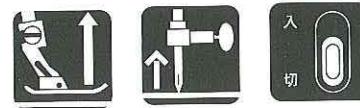
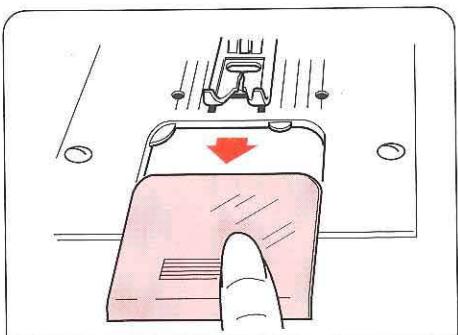
けが防止のために

- 糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないでください。
- ミシンが動いているときに、糸通しレバーは下げないでください。糸通し装置がこわれるだけでなく、針が折れけがの原因となることがあります。

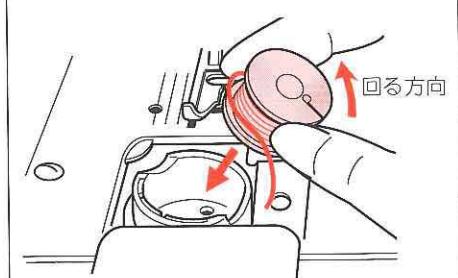
針	糸		
11番	60番	80番	100番
14番	50番	60番	80番
16番	50番	60番	

- 糸通しが使用できる「針と糸の太さの組合せ」は、左の表をごらんください。

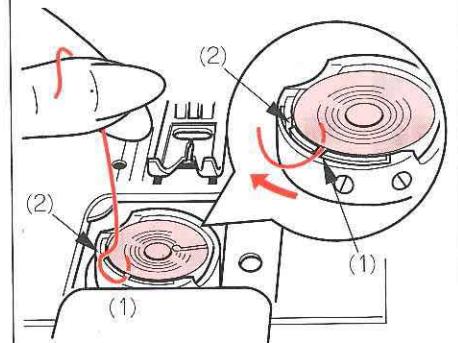
ボビンのセット



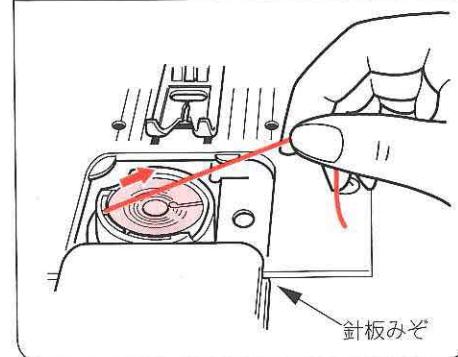
- すべり板を開きます。



- 糸はしをボビンから 10 cm ほどひきだしておき、ボビンが矢印の方向に回るようにして、ボビンケースに入れます。

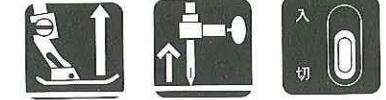
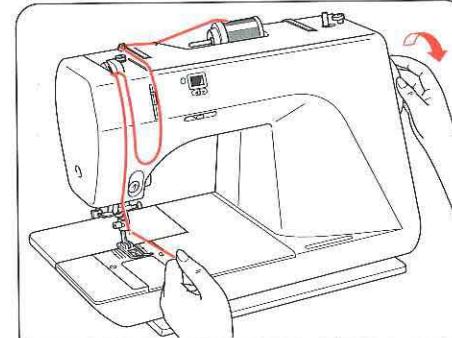


- ボビンを軽くおさえて、糸をボビンケースの切りみぞ(1)にかけて左にひっぱりながら、切りみぞ(2)にかけます。
(ボビンは、ボビンケースの中で左回転します)

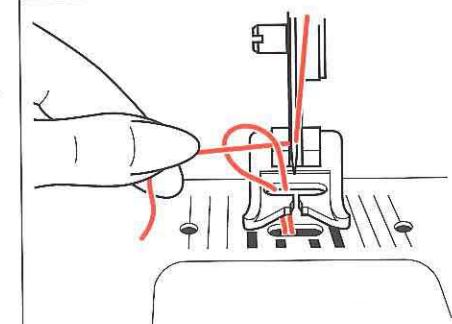


- 糸を矢印の方向にたおして、すべり板をしめます。
- すべり板が外れた時は、針板のみぞに合わせて、そのまま平らに入れてください。

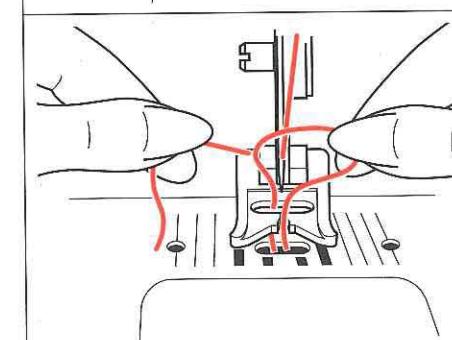
下糸のひきあげ方



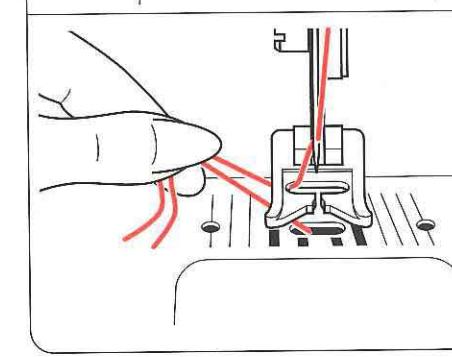
- 押えを上げます。



- 上糸のはしを左手で軽くもちます。
- 針上下ボタンを2回続けて押すか、または、はずみ車を手前に1回転させます。



- 下糸のループをひきだします。



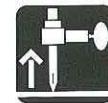
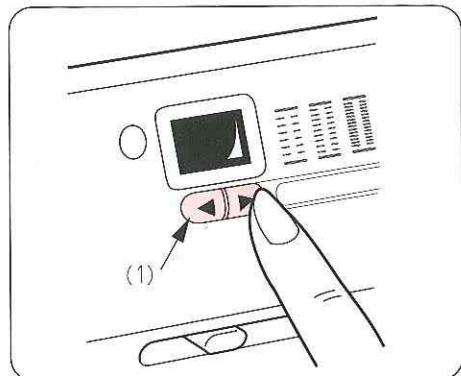
- 上糸と下糸をそろえて押えの下から10cmくらいうしろへひきだします。

模様の選び方

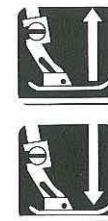
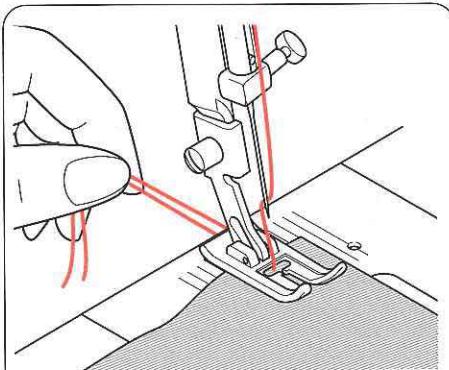
△ 注意

けが防止のために

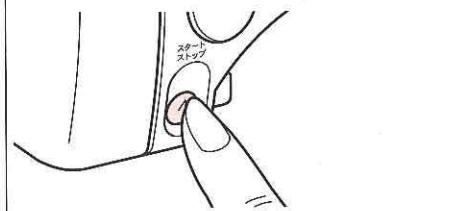
模様選択ボタンを押すときは、必ずミシンを止めて、針を布地から上げてください。
(針が折れ、けがをする原因となることがあります)



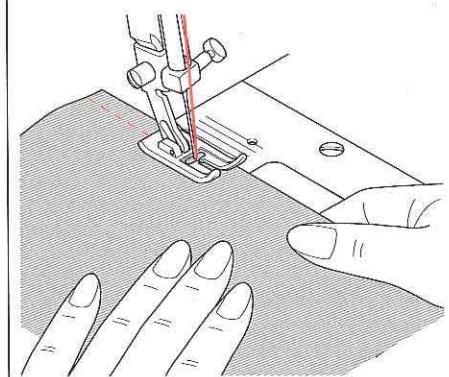
・模様選択ボタン(1)を押して、お望みの模様番号を選びます。



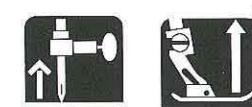
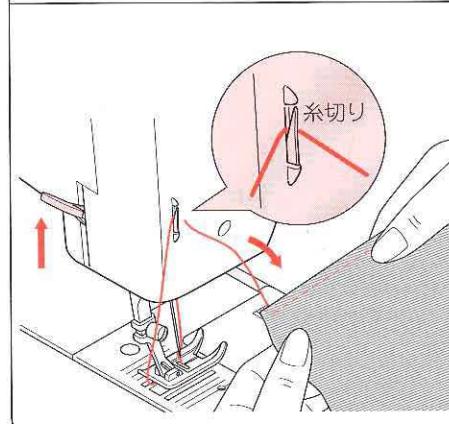
- ・押えを上げて、押えの下に布地をおきます。
- ・押えを下げます。



- ・スタートストップボタンを押して、ぬい始めます。
スピードはお望みのところにセットしてください。



- ・布地をガイドします。



- ・布地のはしまでぬい、ミシンを止めて針と押えを上げます。
- ・布地をはずします。
- ・面板の糸切り部で、糸を切れます。

直線ぬい

△ 注意

けが防止のために

布地は送り歯の働きによって、自然に送られます。無理にひっぱったり、押したりせず、手を添えるだけにしてください。

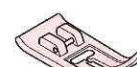
すべてのぬい方の基本です。正しい使い方をよくおぼえてください。

ミシンを合わせましょう

模様選択ボタン :

6	直線ぬい (針落ち左 : ぬい目長さ 2 mm)
7	直線ぬい (針落ち中 : ぬい目長さ 1.5mm)
8	直線ぬい (針落ち中 : ぬい目長さ 2.5mm)
9	直線ぬい (針落ち中 : ぬい目長さ 3 mm)
10	直線ぬい (針落ち中 : ぬい目長さ 4 mm)

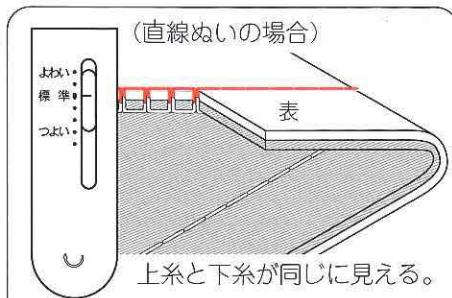
押え :



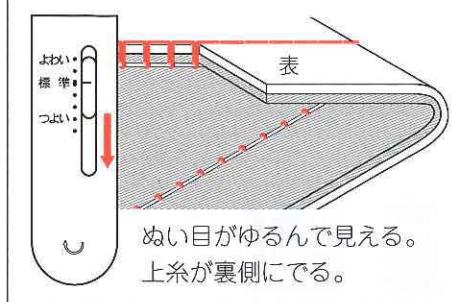
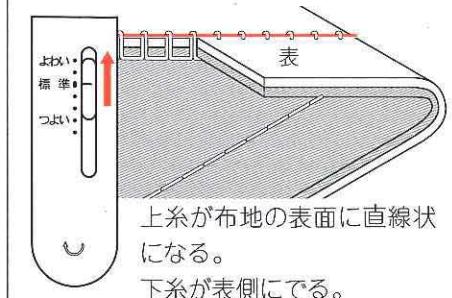
ジグザグ押さえ
を使用します

糸調子のとり方

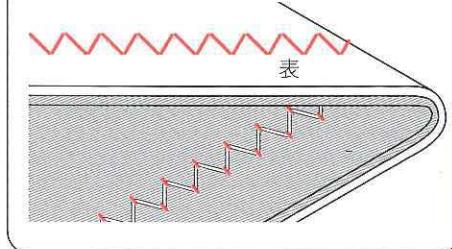
このミシンは、上糸調節レバーを"標準"の位置に合わせれば、通常のホームソーイングに合った糸調子が得られるよう、あらかじめ調整されています。どうしても、糸調子が合わないときは、下記を参考に調整してください。



○正しい糸調子



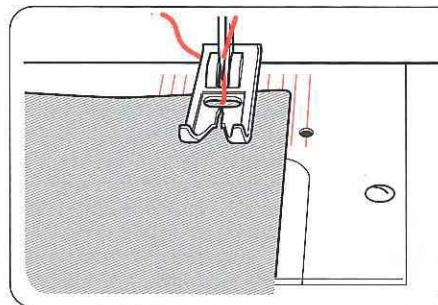
(ジグザグぬいの場合)



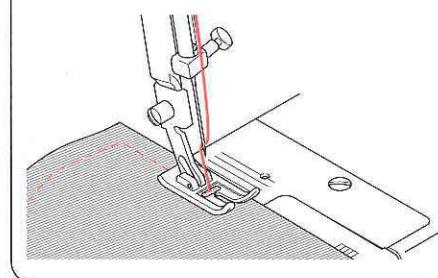
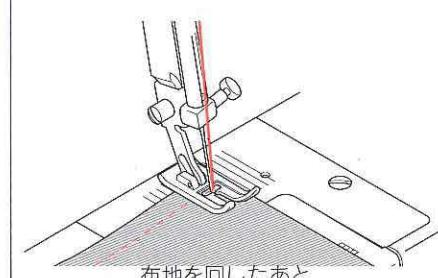
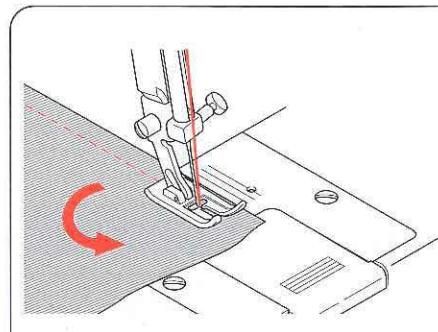
・直線ぬいのときより、上糸調子をやや弱めにしてください。

・布の裏側に、上糸が少しでるくらいに、糸調子を調節すると、きれいにぬえます。

まっすぐぬうには（ガイドラインの利用）



角ぬい



- ・布地のはしを針板のガイドラインに合わせてねいます。

●布地のはしの手前でミシンをストップさせます。

・針を下げ、布地に刺します。

●針を下げるには、針上下ボタンを押すか、はずみ車を手で回します。



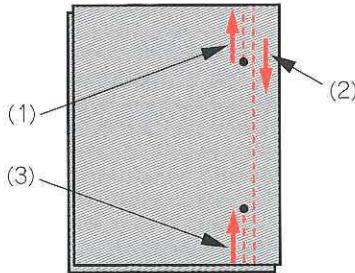
・抑えを上げます。

・針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。

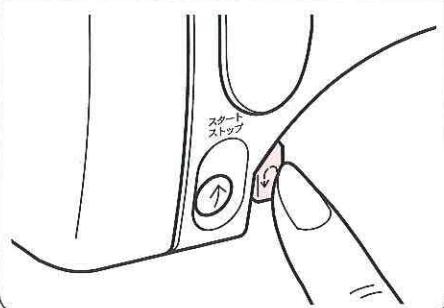


・抑えを下げて、ぬい始めます。

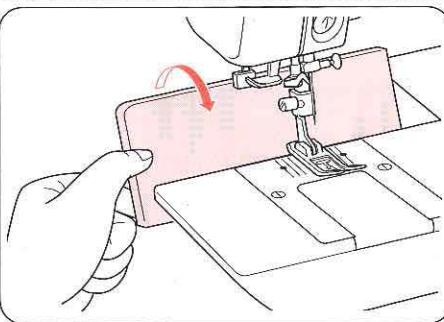
返しぬい



- 返しぬいの分だけ、手前に布地をおき、返しぬいボタンを押しながら、4～5針返しぬい(1)をします。
- 返しぬいボタンをはなすと止まります。
- スタートストップボタンを押すことなく、返しぬいボタンを押すことによりスタートします。
- スタートストップボタンを押して、前進ぬい(2)を行ないます。
- 前進ぬい(2)でぬい終りまできたら、返しぬいボタンを押して返しぬい(3)をします。

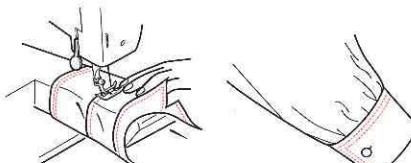


フリーアームぬい（筒ものぬい）

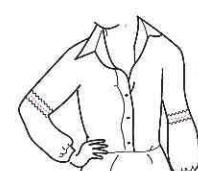


- フリーアームにするとときは、付属品箱を左側に引き抜き、図のようにプレートをおしさげます。
- そで口やスリーブ、ズボンなど筒状のものや、袋物などぬいにくいところをぬうのにフリーアーム（筒形ベッド）を利用すると布地のあつかいが簡単になり、大変便利です。

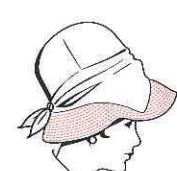
フリーアームはこんなところにご利用ください。



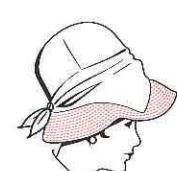
袖つけ



袖口の飾リストッチ



ブラウスの袖の飾りぬい



帽子の縁飾り

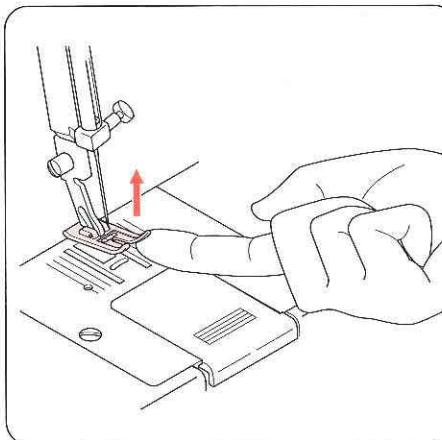
押えの取りかえ方

△ 注意

けが防止のために

必ず電源スイッチを切ってから行なってください。

<取りはずし方>

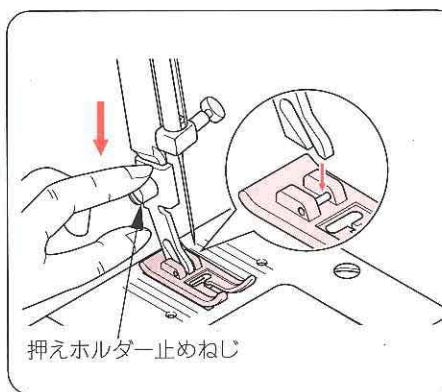


- 針と押えを上げます。

- 押えの先を指で上に押すと、押えがホルダーからはずれます。

- ボタンホール押えのはずし方はボタンホールぬい（15ページ）をごらんください。

<取りつけ方>



- しづかに押え上げレバーを下げ、ホルダーのみぞとピンを合わせた後、押えホルダー止めねじを下へ強く押すとカチッとになります。

△ 注意

けが防止のために

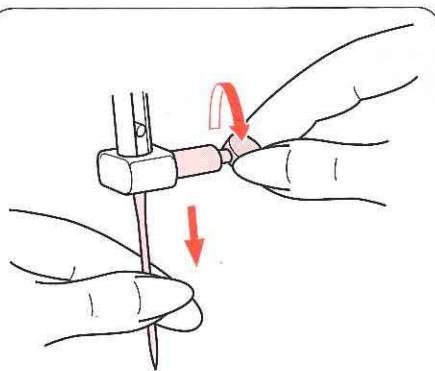
押えホルダーは、押えホルダー止めねじでしっかり締めつけてください。

針の取りかえ方

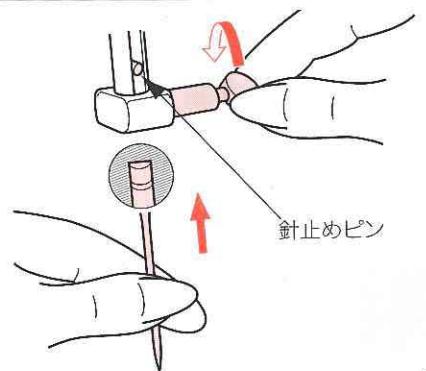
△ 注意

けが防止のために

必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



- ・針を一番上に上げます。
- ・針止めねじをゆるめ、針を下に抜きます。

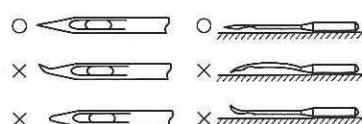


- ・針の平らな面をうしろにして、針止めピンにあたるまでさしこみ、ねじをしめます。

△ 注意

けが防止のために

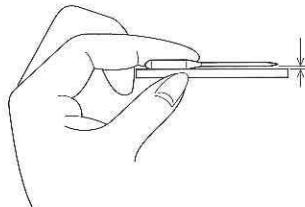
曲がった針や、先がつぶれた針はご使用にならないでください。



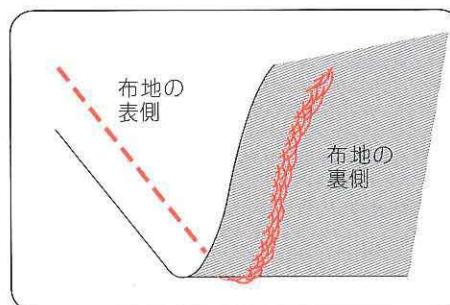
- ・取りつけ前に針の先をたしかめてください。

<正しい針の調べ方>

- ・針の曲がりを調べるには、針板など平らな物の上にのせ、明るいところでのぞいて見たとき、針の下側のすきまが針先まで平行に見えるのが良品です。

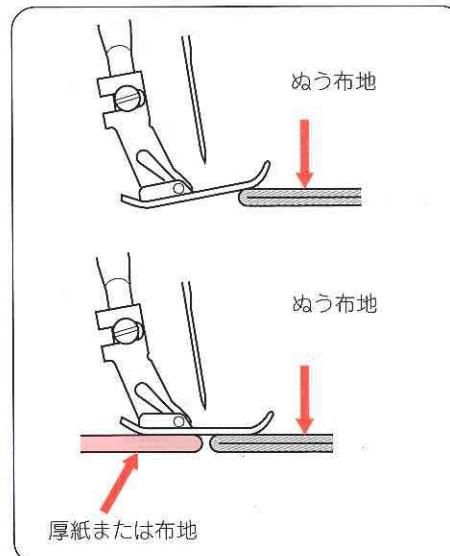


こんな場合は……



- ・布地の裏側がタオル地のようになるのは……

左図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようになるのは上糸の調子が弱いか上糸のかけ方がまちがっています。上糸のかけ方(6ページ)と糸調子のとり方(10ページ)をごらんの上、正しくかけなおしてください。



- ・厚地を布はしからぬうときは……

左図のように、押えが傾いてスムーズにぬえないことがあります。このようなときは、使用する布地と同じ厚さの布地または厚紙を押えの下にあてがってぬいはじめてください。

針と糸と布地の関係

きれいにぬうためには下表を参考にして、布地に適した針と糸を使用してください。
なお、上糸と下糸は普通同じ種類のものを使用してください。

布地の種類	糸の番号	針の番号	模様(直線ぬい)とぬい目長さ
●薄地——薄地ジョーゼット、オーガンディー、ポイル、タフタ、絹布など。	綿 80~100 絹 60~80 化繊糸 80~100	9~11番	6 (2mm) 7 (1.5mm)
●普通地——ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄手のコーデュロイ、別珍、一般服地など。	綿 50~80 絹 50 化繊糸 50~80	11~14番	6 (2mm) 7 (1.5mm) 8 (2.5mm)
●厚地——ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイなど。	綿 30~50 絹 50 化繊糸 30~60	14~16番	8 (2.5mm) 9 (3mm) 10 (4mm)
●伸縮性の布地——ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	綿 50~80 絹 50 ニット用糸	11~14番 ニット用針	7 17 19

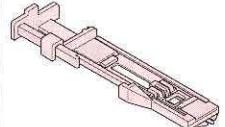
直線ぬい以外のぬい目長さについては、それぞれの項をごらんください。

△ 注意 けが防止のために

針は、家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。

●針の取りかえは、12ページをごらんください。

ぬい模様とその用途

模様	用途	ぬい目長さ (送り量: mm)	押え
ボタンホール	大(あらい) ぬい目の幅: 5mm 1	0.6	
	大(普通) ぬい目の幅: 5mm 2	0.5	
	大(こまかい) ぬい目の幅: 5mm 3	0.4	
	小(普通) ぬい目の幅: 3mm 4	0.5	
	小(こまかい) ぬい目の幅: 3mm 5	0.4	
直線ぬい	(はしぬい) 6	2	
	7	1.5	
	8	2.5	
	9	3	
	10	4	

ぬい模様とその用途

模様	用途	ぬい目長さ (送り量: mm)	押え
ジグザグぬい	ぬい目の幅: 3.5mm 11 ぬい目の幅: 2mm 12 ぬい目の幅: 5mm 13	普通の 一般ジグザグぬい たち目かぎり アップリケ ボタンつけなど	0.4 2 2
プラインドステッチ	まつりぬい 14	2	ジグザグ押え
点線ジグザグ	たち目かぎり つくろいぬい 合わせぬい レースつけなど 15 16	0.6 0.8	

模様	用途	ぬい目長さ (送り量: mm)	押え
ニットステッチ	伸縮地のぬい合わせ 伸縮レースつけなど 17	2	ジグザグ押え
オーバーエッジステッチ	伸縮地のたち目がぎりやふち仕上げ はぎ合わせなど 18	2.5	ふちかがり押え
直線ストレッチステッチ	丈夫な直線ぬい ズボンの股上や股下 ポケットつけなど 19	2.5	ジグザグ押え

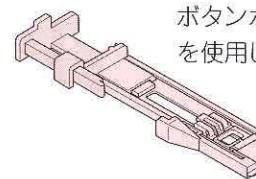
ボタンホールぬい

お望みのボタンホールを一つのステップで簡単に作ることができます。

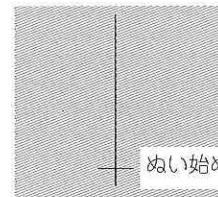
ミシンを合わせましょう

模様選択ボタン:	(大) あらい
1	(大) 普通
2	(大) こまかい
3	(小) 普通
4	(小) こまかい
5	

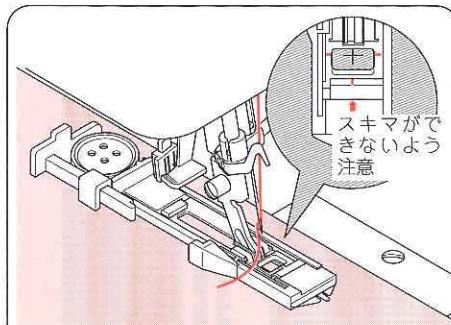
押え:



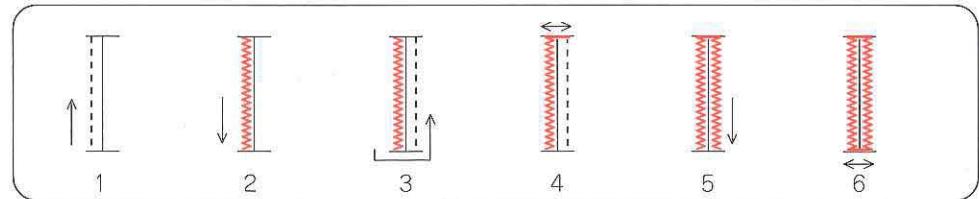
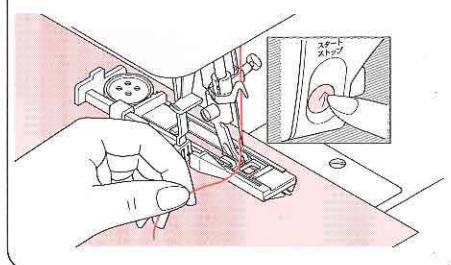
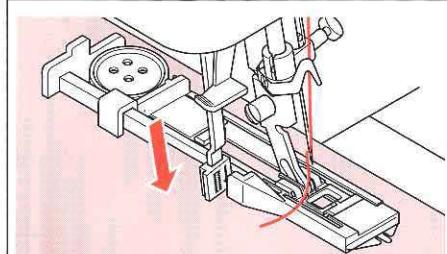
ボタンホール押え
を使用します



ぬい始めの位置



- 1 布地のボタンホールをぬう位置に印をつけます。
●ボタンホール押えの取りつけ方は押えの取りかえ方11ページをごらんください。
- 2 ボタンを押えの台にセットし、布の印が押えの印に合うように布地を入れ押えを下げるます。
●台にボタンがのらないとき:
台の幅が『ボタンの直径+ボタンの厚み』になるようにスライドさせます。
- 3 ボタンホールレバーをいっぱいに下げます。
●ボタンホールレバーをきちんと下げないと、ブザーが鳴りスタートしません。
- 4 上糸を持ちながら、スタートさせます。
●ミシンのスピードはゆっくりぬってください。
●ボタンホールをぬう前に、同じ布のはぎれで、必ず試しぬいをしてください。
●ごく薄い布地をぬうときは、裏地に薄い紙をあてるか、または布と布の間に芯地を入れてぬいますと、布の伸び縮みを防ぎ、きれいに仕上がります。



- 5 上図の順序でボタンホールがぬわれていきます。

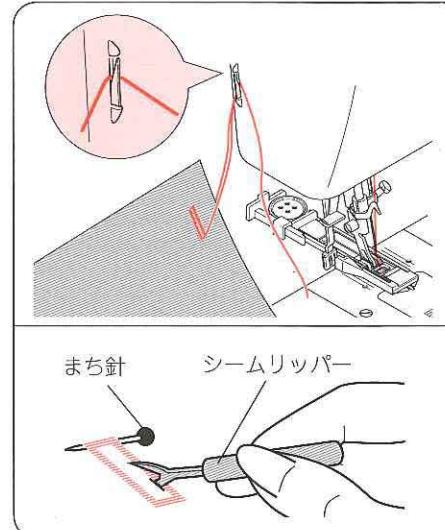


- 6 押えを上げ、糸を切れます

●ボタンホールをもう一度ぬうには、押えを一回上げてください。

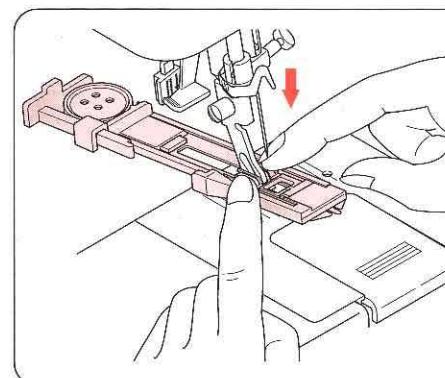
・シームリッパーでぬい目を切らないようボタン穴を切り開きます。

●かん止めのところにまち針を刺しておくと、切りすぎがありません。



けが防止のために

シームリッパーで穴を開けるとき、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべてのとき、けがの原因となることがあります。



・押えを上げます。

・ボタンホール押えを図のように両手で矢印の方向に押し下げてください。

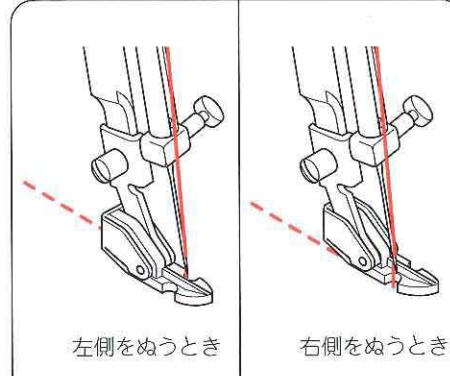
ファスナーつけ (つき合わせ・脇あき)

ミシンを合わせましょう

模様選択ボタン:

- 1 直線ぬい (針落ち中:ぬい目長さ 1.5mm)
- 7 直線ぬい (針落ち中:ぬい目長さ 2.5mm)
- 8 直線ぬい (針落ち中:ぬい目長さ 3 mm)
- 9

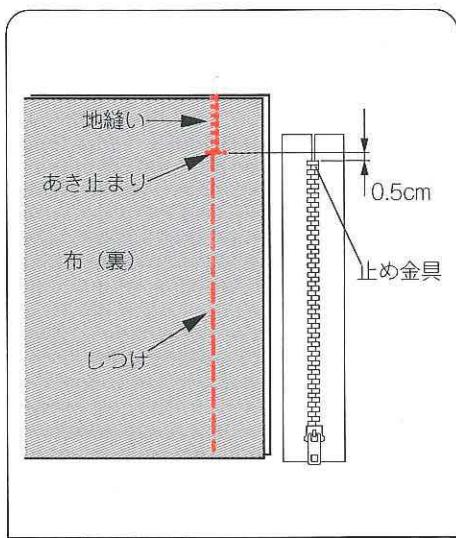
押え:
ファスナーつけ押え
を使用します



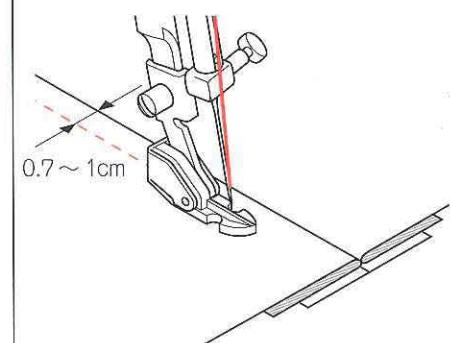
- ・ファスナー押えを取りつけます。

ファスナーの左側をぬうときは、押えホルダーを押えの右側のみぞに入れ、右側をぬうときは、押えホルダーを押えの左側のみぞに入れます。

●つき合わせ

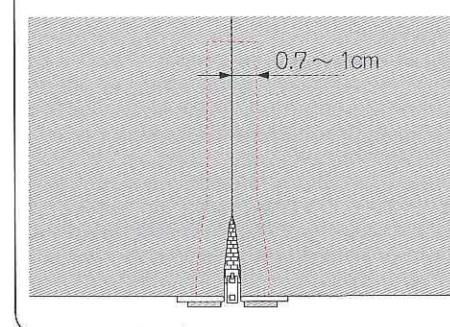


- ・中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
あき部分はしつけをします。



- ・ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。

布の合わせ目から0.7~1cmはなしてねいます。

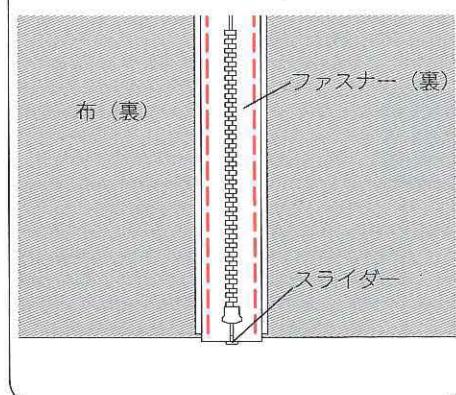


- ・あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。

右側も同様に0.7~1cmはなしてねいます。

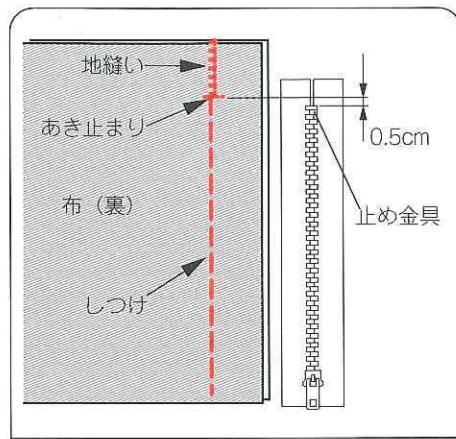
⚠ 注意 けが防止のために

ファスナーつけ押えは、必ず 1~7~9 の模様だけにご使用ください。ほかの模様では、針が押えにあたり、針が折れ、けがの原因になることがあります。

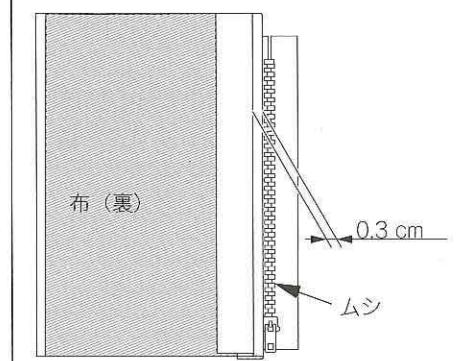


ファスナーツリー（つき合わせ・脇あき）

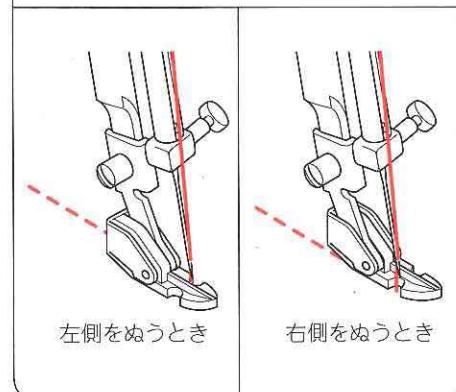
●脇あき



- 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
あき部分はしつけをします。

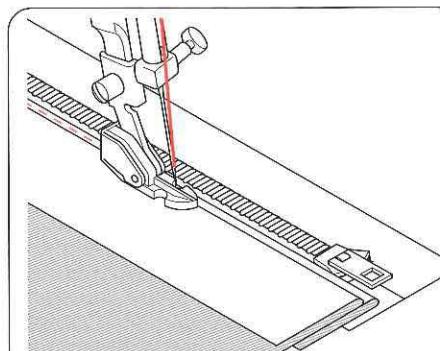


- ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3cmにして折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。



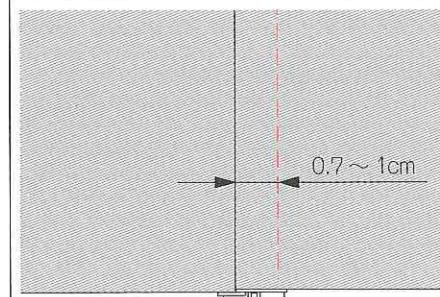
- ファスナー押さえを取りつけます。

ファスナーの左側をぬうときは、押さえホルダーを押さえの右側のみぞに入れ、右側をぬうときは、押さえホルダーを押さえの左側のみぞに入れます。



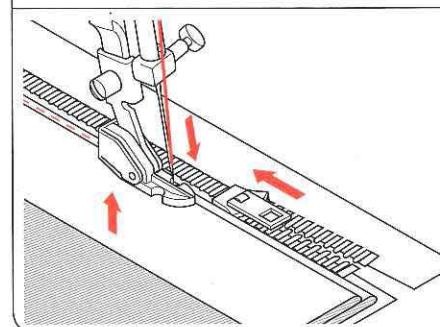
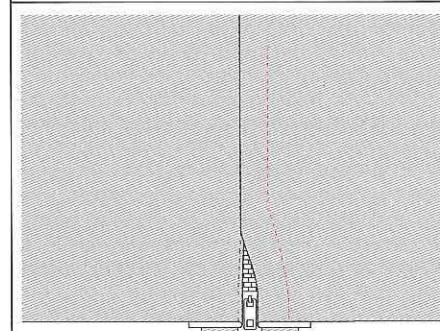
- ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。

押えがファスナーのムシにのらないようにしてねいます。



- 上の布を開いてあき止まりと右側をぬいます。

右側は、布の折り目から0.7~1cmはなしてねいます。



- スライダーの手前で止め、しつけ糸を取り、スライダーを下げる残りをぬいます。

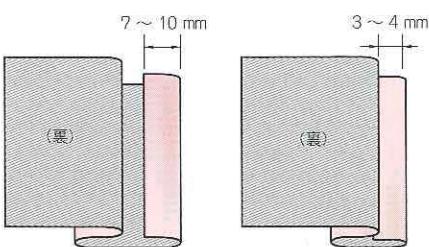
●スライダーをよけてぬうには：

- スライダーの手前でミシンを止めます。
- 針を下げて布にさします。
- 押さえを上げて、スライダーを向こう側へおろします。
- 押さえを下げてぬい続けます。

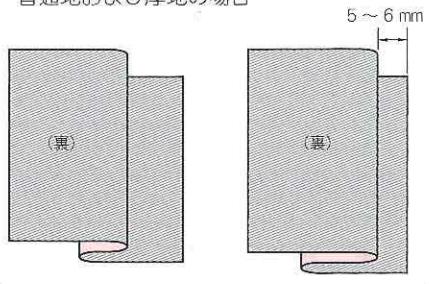
まつりぬい（プラインドステッチ）

布地の表側にぬい目が見えないようにぬう方法です。このぬい目は、ズボンやスカートのすそ、テーブル掛け、カーテンのはしの折り返しなどに利用できます。

・薄地の場合



・普通地および厚地の場合



ミシンを合わせましょう

模様選択ボタン：



押え： ジグザグ押さえを使用します

<布地の折り方>

左図のように布地を折ります。

<ぬい方>

・左に落ちる針が、上の折り山にわずかにかかるようぬいます。

●左側に落ちる針が、必要以上にかかりすぎると布が開かず、表側にでるぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりません。

・ぬい終ったら、布地を表側に広げます。

ふちかがりぬい（たち目かがり）

ズボン、スカートなど、ぬいしろやほつれを防ぐぬいかたです。裏地をつけない肩、股上、股下、袖下などにも利用できます。

ミシンを合わせましょう

模様選択ボタン：



押え： ジグザグ押さえを使用します

または

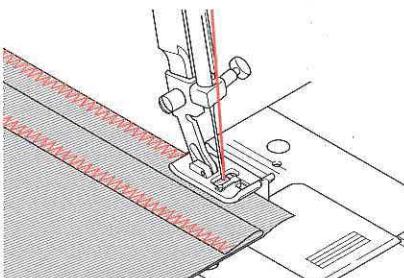
押え： ふちかがり押さえを使用します

△ 注意

けが防止のために

ふちかがり押えは、必ず 13と 18 の模様だけにご使用ください。

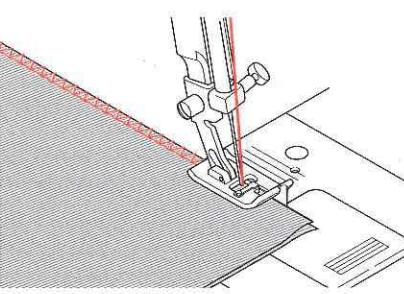
布はしの始末（△△△ 模様）



<ぬい方>

・布はしをふちかがり押えのガイド部にあてかがります。カールすることなく、まっすぐきれいにぬえます。

合わせぬいとふちかがり（△△△ 模様）

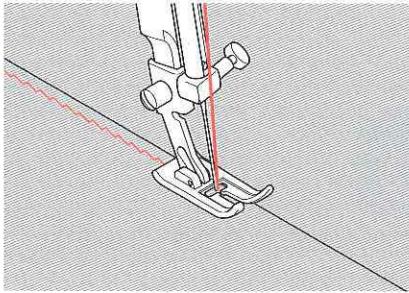


●糸調子は、上糸と下糸が布地の裏側で交差するように、調整してください。

●薄い布地の場合は、布はしを二つ折りにするときれいにぬえます。

伸縮ぬい（ニットステッチ）

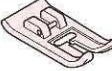
伸縮性のある直線状のぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。ニットやジャージなど伸縮性に富んだ布地の裁縫に適しています。



ミシンを合わせましょう

模様選択ボタン：

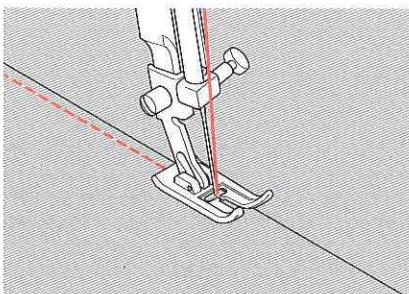
17

押え：
 ジグザグ押え
を使用します

●伸縮性布地をぬう場合は、ニット針を使うと、目飛びや糸切れを防ぎます。

伸縮強化ぬい（ストレッチステッチ）

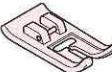
直線の3重ぬいです。丈夫で伸縮性があるぬい目なので、力がかかるてほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。



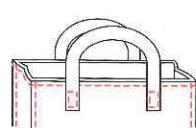
ミシンを合わせましょう

模様選択ボタン：

19

押え：
 ジグザグ押え
を使用します

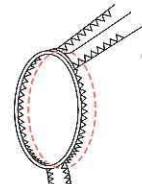
ストレッチステッチはこんなところにご利用ください。



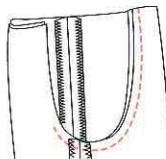
バッグ



ポケット



袖付け



ズボンの股ぐり

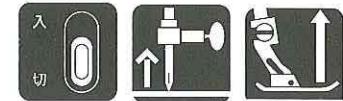
ボビンケースのはずし方と入れ方

⚠ 警告

感電、けが防止のために

必ず、電源プラグをコンセントから抜いてください。

<はずすときは・・・>



- 針を上げ、押えをはずします。(押えの取りかえ方11ページをごらんください)
- すべり板を開き、ボビンをはずします。
- 針板止めねじ(1), (2)をはずします。
- 針板を持ち上げ、はずします。
- すべり板をはずします。
- ボビンケース止め板のみぞにドライバーをあてて止め板を矢印の方向にねじって、ボビンケースを取り出します。

<入れるときは・・・>



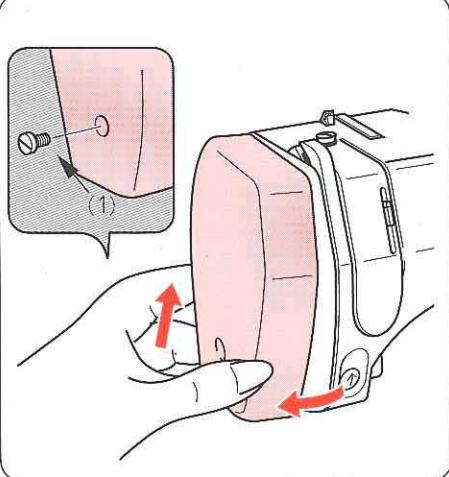
- ボビンケースのつばを押え板の下に入れます。
- 止め板を元の位置にもどします。
- 針板を取りつけ、針板止めねじでしめます。
- ボビン、すべり板、押えを取りつけます。

ランプの取りかえ方

⚠ 警告

感電、けが防止のために

必ず、電源プラグをコンセントから抜いてください。

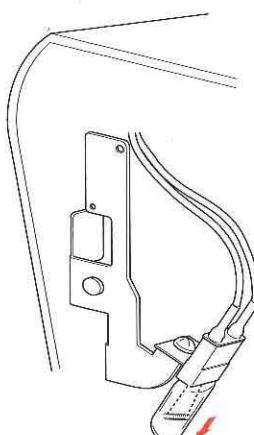


- ・面板止めねじ(1)をゆるめてはずします。
- ・面板の下端部をもって左側に移動しながら、上方にはずします。

⚠ 注意

けが防止のために

長時間使用していると、ランプが熱くなり、やけどする恐れがあります。ランプを取りかえるまえに、ランプが十分冷えてから交換してください。



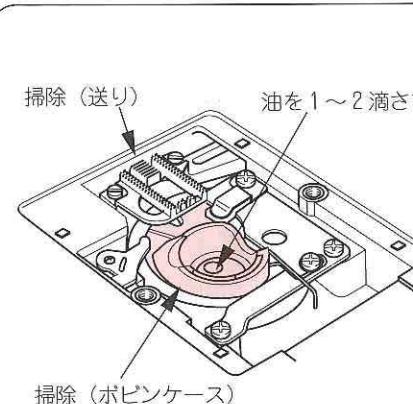
- ・ランプを矢印の方向にゆっくり引き抜きます。
 - ・ランプを取りつけるときは、8V、3Wのランプを使います。
- ランプはお買い上げの販売店または部品注文書はがきにてお求めください。

ミシンのお手入れ（いつも調子よく）

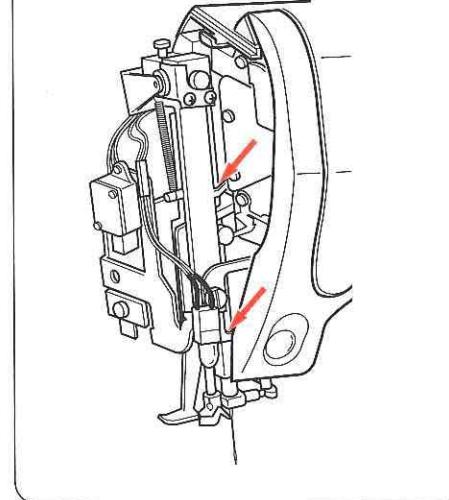
⚠ 警告

感電、けが防止のために

掃除の前には、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



- ・針板をはずして送り歯やかまのまわりを掃除してください。
 - ・ボビンケースをはずしてボビンケース回りのごみやほこりを取り除いてください。
- 針板及び、ボビンケースのはずし方はボビンケースのはずし方の項（19ページ）をごらんください。



＜面板内部の注油＞

- ・このミシンは、特に注油する必要はありませんが、数ヵ月以上ご使用にならないときは、矢印のところに1~2滴油をさしておいてください。

こんなときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてみてください。

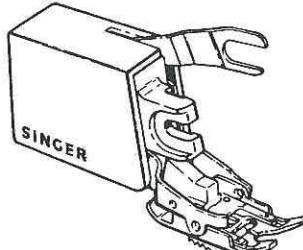
不調の状態	原因	処置	参考ページ
布地の裏側がタオル地のようになる	●上糸のかけ方がちがっている ●上糸調節レバーが最上点になっている	正しく通します。	6 10
針が折れる	●細い針で厚地をぬったり、細い針に太い糸を使っている ●針の取りつけ方が悪かったり、曲った針を使っている ●布地を無理にひっぱっている	正しい針と取りかえます。 手は布地が曲がらないように導くだけ。 ねじをしっかりしめます。	13 12 —
	●針止めねじがゆるんでいる	必ず、針を上げてから押します。	12
	●針が布地にささっているときに、模様選択ボタンを押している	必ず、針を上げてから押します。	9
	●押えがゆるんだりして針にあたっている	押え止めねじをしっかりしめます。	11
	●上糸のかけ方がちがっている	正しく通します。	6
	●針が曲がっていたり、先端がつぶれている	正しい針と取りかえます。	12
	●針が糸の太さと合っていない ●上糸の調子が強すぎる	"針と糸と布地の関係"参照。 "糸調子の取り方"参照。	13 10
糸が切れる	●針の取りつけ方がちがっている	掃除をします。	12
	●ボビンケースのまわりに糸くずやごみがたまっている ●ボビンがボビンケースに正しく入っていない	掃除をします。	20 8
	●糸巻きの切りみぞを左側にセットしている	切りみぞを右側にします。	6
	●針が曲がっていたり、針先がつぶれている ●針が糸の太さと合っていない	正しい針と取りかえます。 "針と糸と布地の関係"参照。	12 13
	●上糸のかけ方がちがっている ●針がしっかり取りつけられていない ●針・糸・布の素材が合っていない	正しく通します。 しっかりと取りつけます。 "針と糸と布地の関係"参照。	6 12 13

不調の状態	原因	処置	参考ページ
布地を送らない	●針板と送り歯の間にほこりがついている	掃除します。	20
	●専用のボビンを使っていない	専用のボビンを使う。	3
布地が縮む	●上糸の調子が強すぎる	"糸調子の取り方"参照。	10
	●上糸のかけ方がちがっている	正しく通します。	6
	●布地とぬい目の長さが合っていない		13,14
下糸が巻けない	●上糸が糸立棒からスムーズにでない	"下糸巻き"参照。	5
	●ボビンを右へ押して、ボビン押えを固定していない		5
	●専用のボビンを使っていない	専用のボビンを使う。	3
ミシンの回転が重い、音が高い	●油がきれています		20
	●送り歯にごみがたまっている	掃除します。	20
	●カマの部分に糸くずが巻きこまれている		20
ミシンが動かない	●ミシンのプラグコードがコンセントに差し込みが不十分である	しっかり差し込みます。	4
	●ミシンの電源スイッチが入っていない	スイッチを入れます。	4
	●スタートボタンを押さない	ボタンを押します。	4
	●糸巻軸が右へ押されている	左へ戻します。	5
	●押えが上がっている	押えを下げます。	4
	●ボタンホールぬいで： —ボタンホールレバーがきちんと下がっていない —ボタンホール押えが取り付けられていない	きちんと下げます。	15
	●フットコントローラー（別売り）が取り付けられている	ボタンホール押えを取り付けます。	15
		コントローラーで操作するか、コントローラーをはずします。	22

この項目に記載されている項目以外の不調または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店又は「お客様相談係」（裏表紙参照）におたずねください。

上送り押えのご案内（別売り）

くっついたり、伸びたり、また、すべりやすい布地に上送り押えを使いますと2枚の布地がずれることなく、きれいな均一なぬい目が得られます。



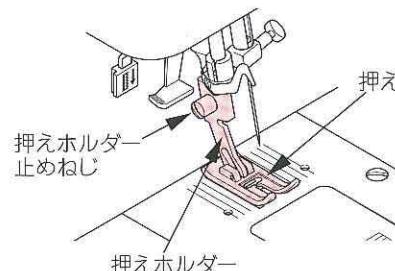
次のような布地をおぬいになるときにお使いください。

- ・ビニールレザーやビニールコーティングの布地ですべりの悪いとき
- ・ベルベットやパイル地のように毛足がありぬいぎれするとき
- ・格子じまやしま地の模様がずれないようにするとき

△ 注意

けが防止のために

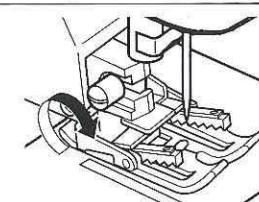
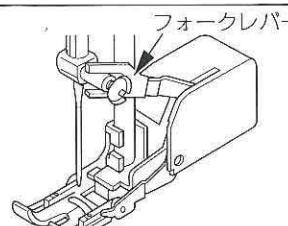
安全のため、必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



<取り付け方>



- ・針と押えを上げます。
- ・押えホルダー止めねじをはずし、押えと押えホルダーを取りはずします。
- ・上送り押えのフォークレバーを針止めの軸にかけます。
- ・押えのホルダーパーを押え棒に取り付け、押えホルダー止めねじをしっかりとしめます。



フットコントローラーのご案内（別売り）

●購入方法については、24ページをごらんください。

コントローラーを使えば、足の操作でミシンのスタート・ストップ、スピードの調節ができるようになります。

△ 警告

感電、火災を防ぐために

コントローラーは、落としたり、座ブトンの下において使用しないでください。

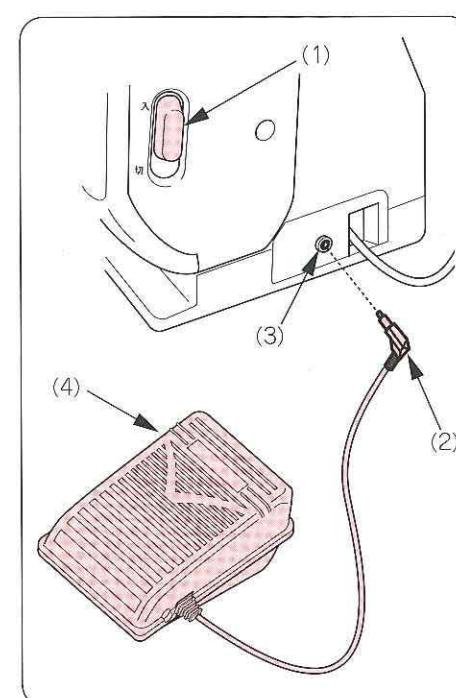
△ 注意

けが防止のために

安全のため、必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



電源スイッチ(1)を切ります。



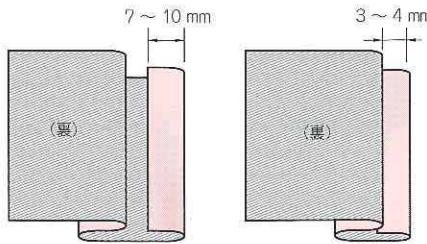
- ・コントローラーのプラグ(2)をミシンの接続穴(3)に差し込みます。
- ・コントローラー(4)を足元に置き、電源を入れなおします。ペダルを踏むとミシンがスタートし、強く踏み込むほどスピードが速くなります。ペダルを離すとストップします。

- コントローラーを接続すると、スタート・ストップボタンでの始動・停止はできなくなります。また、スピード調節ツマミでもスピードの調節はできなくなります。

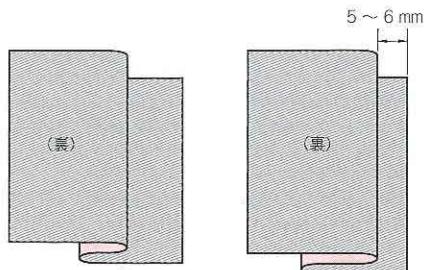
フライングステッチ押さえのご案内（別売り）

布地の表側にぬい目が見えないようにぬう方法です。このぬい目は、ズボンやスカートのすそ、テーブル掛け、カーテンのはしの折り返しなどに利用できます。

・薄地の場合



・普通地および厚地の場合



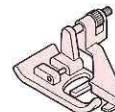
ミシンを合わせましょう

模様選択ボタン：



14

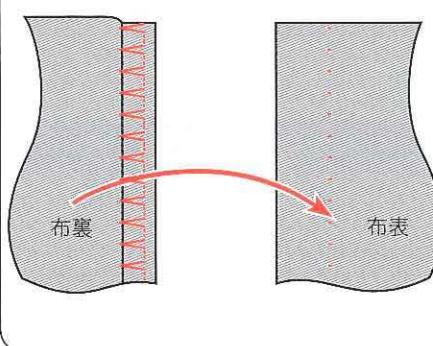
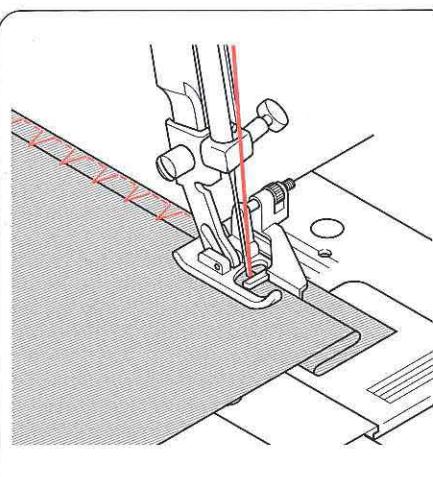
押え：



フライングステッチ
押さえを使用します

＜布地の折り方＞

左図のように布地を折ります。



＜ぬい方＞

・折り山をガイドに当てながらゆっくりぬいます。

・左に落ちる針が、上の折り山にわずかにかかるようぬいます。

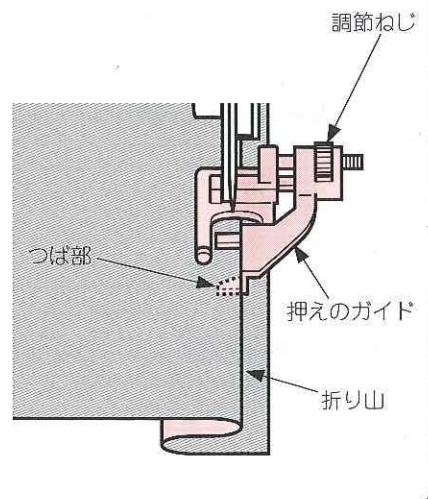
●左側に落ちる針が、必要以上にかかりすぎると布が開かず、表側にでるぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりません。

・ぬい終ったら、布地を表側に広げます。

＜布のおき方＞

・折曲げた布地の折り山を押さえのガイドに当て、左に落ちる針がわずかに折り山を刺すように調節ねじでガイドの位置を調節します。

●ガイドのつば部分を布地の上と下の折り山の間にさしこむ。



修理サービス要領

●修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をよくお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
3. 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、別掲の各地区にある「お客様相談係」宛お申し越し下さい。

●修理部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できるよう体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災など天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ. 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料の合計額となります。

140年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭にお届けいたしております。

今後ともシンガーミシンをご愛用くださいます様お願い申し上げます。

SINGER®
シンガーミシン

® は THE SINGER COMPANY の登録商標です

Part No. 378591-001(898)(Rev.2)